

採択プロジェクトのワーキンググループ におけるモニタリングについて

令和6年8月
商務・サービスグループ
生物化学産業課

採択案件の事後的なフォローアップについて

- バイオものづくり革命推進ワーキンググループ（以下、「WG」という。）では、バイオものづくりの全体像を踏まえた、社会実装に必要な事業の内容等について検討を行うことに加えて、採択プロジェクトを担う企業の経営層との対話を通じた、指導・助言（以下、「モニタリング」という。）を行うこととしている。
- 研究開発計画等では、詳細について定めていないことから、進め方等の大枠について、委員・事務局間で認識を合わせておく必要がある。

（参考抜粋）

産業構造審議会 商務流通情報分科会 バイオ小委員会バイオものづくり革命推進ワーキンググループの設置について
（抜粋）

2. 主な審議内容

- （1） バイオものづくりの全体像に係る議論
- （2） 研究開発計画の研究開発項目、事業のアウトカム・アウトプット、スケジュール等の議論
- （3） **プロジェクト実施企業等の経営層との対話を通じた、指導・助言**
- （4） **プロジェクトの取組状況の確認・改善点の指摘**、部会への報告 等

バイオものづくり革命推進事業研究開発計画（第3版）（抜粋）

6. 実施体制等

（1）役割分担

- WGは、研究開発計画の審議、研究開発計画の変更の審議、経営面でのコミットメントの審査、**プロジェクト実施企業等の経営層との対話を通じた指導・助言、プロジェクトの取組状況の確認・外部環境等を踏まえた改善点の指摘**、産業構造審議会 商務流通情報分科会バイオ小委員会への報告、研究開発事業の事前・中間・事後評価を行う。

研究開発成果の社会実装を加速するための取組（モニタリングの仕組み）

- 研究開発計画で定めたように、確実な社会実装のためには、研究開発段階から市場形成を見越して標準化等の検討をすることが必要。また、この標準が各社の経営と具体的なビジネスにつながることも重要。
- ポイント1：具体的には、下図のような役割分担により、**技術面・経営面の二段構えでのガバナンス**に取り組むべきではないか。
- ポイント2：また、**「採択案件全体の俯瞰」と「各テーマの取組の深掘り」を、両輪で進める**べきではないか。（前者は「**研究開発計画**」を、後者は「**事業戦略ビジョン**」を対象。）
- ポイント3：「事業戦略ビジョン」で、**標準化等への取組内容の明記と体制整備への経営層の取組**を求めるべきではないか。

社会実装・技術推進委員会（+ NEDO事務局）

- プロジェクト参加企業（**実務担当者レベル**）から報告を聴取。
- 個別プロジェクトごと**技術開発の進捗**に加え、標準戦略の取組について、**具体的な取組の内容・進捗状況**を確認。
- 標準に知見のある有識者の参加。

⇒ 確認の結果を踏まえ、**今後の取組内容（深掘りすべき事項の指摘、進捗を踏まえ今後取り組むべき事項の助言等）**に関する指摘・助言を行う。

WG（+ 経済産業省事務局）

- WGは、経営戦略を**経営層から**確認する場。ハイレベル（**プロジェクトの主要企業の経営者等とWG委員等**）で、市場創出戦略（**標準戦略含む**）を確認。
 - **将来のゴールを見据えたバックキャストでの戦略となっているか、投資や体制構築がなされているか、不十分な場合は、戦略の見直し、そのための体制整備等、経営層に具体的な取組を求める。**
- ⇒ **標準戦略を含む企業の経営戦略・組織体制の構築と基金事業における取組を接合。**

連携・分担しつつフォローアップ（+ 取組サポート）

プロジェクト実施・推進主体（プロジェクト参加企業等）

○ 事業戦略ビジョンの拡充・実施（**+ 委員会の議論・指摘を踏まえた標準化の取組の深掘り**）

WG議事次第、説明内容等イメージ

(1) バイオ分野を取り巻く環境変化、社会実装に向けた支援の状況等（事務局）【10分】

- 計画策定時にWGで説明した資料をベースにその後の変化について説明。
- 特に、国内外の技術・市場・政策等の最新動向の紹介、社会実装に向けた支援（標準化、規制、広報等）について報告。

(2) プロジェクト全体の進捗状況等（NEDO）【10分】

- 技術・社会実装推進委員会の議論や結果等をまとめて報告。
- 事務局の説明に対して補足的な内容（NEDOの主体的な取組、技術等の最新動向等）を報告。

〔(1)、(2)をまとめて説明し、その後質疑【10分】のイメージ〕

(3) 経営層による取り組み状況説明【質疑含め30分/社×採択コンソーシアム数（6～8）（説明10分質疑20分のイメージ）説明は公開 質疑は非公開】

- 各社の事業戦略ビジョンを元に経営層から
 - ・当該プロジェクトの戦略上の位置づけ、
 - ・事業推進体制における工夫やプロジェクトの取組状況、
 - ・事業戦略上の当該PJの位置づけ、
 - ・今後の展望 等を説明
- 企業の機微情報が含まれること、忌憚ないご意見をいただくために質疑及び資料の一部は非公開で実施

(4) 総合討議・議決（改善点の指摘等、提示意見の調整）【非公開 30分】

※モニタリングする企業数に応じて、複数回に分けて実施する可能性がある。

<配付資料>

資料● ～～

参考資料 事業戦略ビジョン（全実施者 非公開版）

- コミットメント等確認を目的に全実施者の非公開版をWG前に委員に事前送付し確認いただく

（※利害関係は委員、事業者双方に確認。あった場合適宜対応。）

実施時期について

- 「モニタリング」を行うという観点を考慮すると、一定期間の事業実施とその評価を踏まえた上で、経営視点でのモニタリングが行われることが重要。
- 社会実装・技術推進委員会における技術開発そのものに対する指導・助言を経た上で、事業化していくために必要な視点を加えていく。

※各企業の取組がわかるよう、モニタリングWG開始前に資料確認の時間を十分確保する。

<スケジュールイメージ>

- | | |
|---------|--------------------------------|
| ○9月頃 | 企業ヒアリング（経済産業省イノベーション・環境局国際標準課） |
| ○9～10月頃 | 第1回 NEDO技術・社会実装推進委員会実施（第1回公募分） |
| ○11月頃 | モニタリングWG（1～2回） |
| ○12月頃 | NEDO技術・社会実装推進委員会ステージゲート審査 |
| ※WG以降 | 議事概要、議事録、意見とりまとめ案を合議 |